
放火後ティータイム-PYROMANIAC GIRL'S BAND-

柳雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

放火後ティータイム - PYROMANIAC GIRLS
AND - B

【Nコード】

N6446N

【作者名】

柳雨

【あらすじ】

待望の新入部員・中野梓が加入した軽音部、時は流れもうじき学祭ライブが近づいた頃、未だにバンド名が決まらず、あれこれ悩んでいる内に顧問教師・山中さわ子が何故か「こんなの適当に決めればいいのよ」と、半ギレ気味に勝手に決めてしまった。命名「放火」後ティータイム『…漢字の誤変換が招いた悲劇の『けいおん！』短編IFストーリーが今、始まる

(前書き)

時期は梓加入後の学祭ライブです、とんでもない内容につき、純粋な『けいおん!』ファンは閲覧の際には御注意して下さい……

- 桜が丘高校。

- もうじき学祭が始まり、全校生徒達が張り切る時期、勿論軽音部も例外ではなく、その準備をしていた。

- しかし、一つ問題があった、それは軽音部の『バンド名』が未だに決まっていなかったことだった。

- 部員五人+顧問教師一人が音楽室でいつものティータイムを楽しみつつ、『あーでもない、こーでもない』と色々なバンド名を考えながら、どれもこれもイマイチだった。

- 『平沢唯と愉快的仲間達』、『ぴゅあ ぴゅあ』、『充電期間』、『恩那組』、『靴の裏のガム』…どれもこれもじっくり来るものではない。

- いつまでも決まらず、段々とイライラしてきた長髪に眼鏡をかけた美人と言ってもいいくらいの女性…軽音部顧問教師・山中さわ子…はついに業を煮やし、独断でバンド名を勝手に決めるといふ暴挙に出た。

「こんなの適当に決めればいいのよ。」

- 『お茶がゆっくり出来ない』という半ば個人的な理由でイラつき、さわ子はサラッととんでもないことを言いながら、バンド名を体育館を使用許可を得るための申請書に書き、赤いフレームの眼鏡をかけてる少女…生徒会の真鍋和に提出した。

・命名・『放「火」後ティータイム』。

「「「「「え?」「」「」」

・軽音部部員全員が絶句した瞬間だった。

「ちょ…ちょっと待ってよさわちゃん!!今のはおかしい、おかしいよッ!?!」

・頭にヘアバンドを付け、おでこを出してる活発そうな少女・軽音部部长を勤め、ドラム担当の田井中律はさわ子に異議を唱えた。

「ん?なんで???」

「なんでじゃないです!!」

・黒い髪をツインテールにした猫っぽい印象を与える小柄な少女…一年生にして新入部員・メロディーギター担当の中野梓(通称・あずちゃん)は机を『バンッ!』と叩きながら、可愛らしい顔に似合

わない怒鳴り声を上げた。

「そうですね！大体漢字が違いますッ！！放課後が『放火後』になつてましたよ！？」

・見事な長い艶やかな黒髪を持つ少女・ベース担当の秋山澪はさわ子が『適当に決めればいい』の精神でやらかしてしまった『漢字誤変換』を指摘した。

「ほえ？文字間違つてたの？いや〜気づかなかつたよ〜。」

「あらあら 唯ちゃんつたら 実は私もよ〜」

・茶髪にヘアピンをした呑気そうな口調の少女・リードギター担当の平沢唯、クリーム色のロングヘアに沢庵の様な眉毛を持つおっとりしたお嬢様風の少女・キーボード担当の琴吹紬（通称・ムギ）の二人はさわ子の間違いに全然気づかなかつたという。

「そこは気づこうよ、二人共ッ！？」

・唯とムギの天然ポケットぷりに律がツツコミを入れた。

「ハッ：そうだ！早く和を止めに行かないと！？あのまま生徒会に提出に行かせたらアタシら、本当に『放火後ティータイム』になっちまうぞッ！！梓の代になってからもほぼ永久にッ！！」

「えー！？ダ、ダメだよーッ！？」

「嫌アアアアア！？そんなの嫌アアアアアアアアア！！」

- 律の言う通り：早く和を止めに行かねばこれから先、梓の代まで続くだろう。『放火後ティータイム』という名が桜が丘高校・軽音部の歴史に永久に刻まれてしまう、唯と特に将来的には軽音部の未来を担う役割を持つ梓は跳ね上がる様に絶叫を上げ、二人は教室を出て行く。

「わ、私達も行くぞ！ムギッ！！」

「ええ！」

- 澪とムギも急いで音楽室から出て行く。

- だが、時既に遅し。

- 生徒会室。

「え？もう、さっき正式に『放火後ティータイム』で決定になっちゃったわよ？ちなみにもう変更不可だから。」

- 和の死刑判決に等しい言葉に、軽音部員五人は完全に沈黙した。

「和ちゃんのバカアアアアアッ！！」

「ぐええええええ！？」

「唯ッ！？ストップ！ストップ！落ちる！和が落ちるって！？」

- 名称変更不可になり、永久に『放火後ティータイム』に決定した運命と非情な決定を下した和（幼なじみ）を呪うかの様に、唯は二ワトリを捻る要領で和の首を締め上げるがすぐさま他の四人に止められた。

- 唯の蛮行をなんとか止め、その後、五人はトボトボ重い足取りで軽音部部室に帰還した。

「あ、おつかえり〜 …… って、ぐおおおおお！？」

「さわちゃんのバカアアアアアッ！！」

- こちらの気も知らずに呑気にケーキを頬張る諸悪の根源を見た瞬間、唯は先程の和の時以上の力でさわ子の首を絞める…今度は誰も止めなかった。

「…さてと、諸君…アタシ達『放火後ティータイム』の今後を決めるとしようか…。」

「「「「YES。」」」」

・重い空気に包まれる部室の中、律は四人をテーブルに座らせ、最早変更不可能となった呪われし名前『放火後ティータイム』の今後を考える緊急ミーティングを始めた。ちなみに唯が絞め落としたさわ子は部室のロッカーに放り込んである。

「どうする？こんな名前じゃ恐らくアタシ達はもうまともな部活動は出来ないし、世間の風当たりもキツかるう。」

・活発で明るい律もさすがに今回ばかりは本気でへこんでいた、その表情には陰が差し込む。

「どうしよう、どうしよう。私達きつと周りからあらぬ誤解を受けるんだ。わあああああ。！！」

「澪ちゃん！予測はしてたけどそんなに悲観しないで！！」

「もう終わりですよ。ムギ先輩、私達きつと世間からこう言われますよ。『放火後ティータイムは放火とティータイムを華麗に嗜む悪魔と女将の隠し子だ』って。」

「あずにゃんもしっかりー！？」

・澪と梓の意識がどこか遠くへ行きかけたため、ムギと唯が必死に呼び戻す。

「あー。コホン！話を戻すが、もう済んだことを悔やんでも仕方無エツ！！肯定しろ！運命を受け入れろ！アタシ達はもう今までの軽音部じゃない！今日からアタシ達は『放火後ティータイム』だ！！それ以上でも以下でも無エツ！！解ったな！？」

「『『YES。』』』」

・律に一喝され、全員がもう運命に抗うのを諦め、そして決意を新たに『放火後ティータイム』として活動していくことにYESした。

「取り敢えず、『放火後ティータイム』の名に賭けて、『それらしい活動』を中心にしながら今度の学祭のライブを成功させていこう。」

「ねえねえりっちゃん、『それらしい活動』って具体的にどんなの？」

・普段からあまり部長らしくないとよく言われる律にしては珍しく、積極的に意見を出す、その意見に唯が首を傾げながら尋ねた。

「決まってるだろ？放火だよ、放火、アタシらは放火後ティータイムなんだぜ？放火しなくてどーすんだよ？」

「あ！そつかあゝ さすがりっちゃん！」

「律！それは犯罪だツ！！」

「『あ！そつかあゝ』じゃありません！唯先輩！」

・律のトンデモ発案と唯の納得に対して、良識人である漣と梓はすかさずツッコんだ。

「お前！いくら私達のバンド名が『放火後ティータイム』だからって本当に放火しに行く奴があるかツ！？」

・ 澪は幼なじみの律が間違った方向みちに行くことを良しとせず、なんとしてでも止めねばなるまいと思ひ、食いつくが。

「澪ちゃん…全ての決定権はりつちゃんにあるわ、そのりつちゃんが決めたことは神が下した審判ジャッジに等しい…それが私達の運命ならば、受け入れなさい！例え血塗られた修羅の道を歩むことになるうと！冥府魔道に堕ちて悪鬼羅刹になるうとも！それは抗えぬ運命なのだからッ！！それが青春よッ！！」

「ムギ…お前は何を言ってるんだ？それにそんな血塗られた青春はゴメンだ！！」

「なるほど、一理あるよムギちゃん…私、目が覚めた気がする、固定観念を取り払って常に曇り無き眼まなこで見なければ真理への悟りには決して辿り着けない…それは極めて重要な要因ファクターだと思っよ！」

「唯先輩！？あなたこそ目を覚ましてッ！！」

・ 律に洗脳でもされたが如く持論をかざすムギと唯に対して、澪と梓はただただ狼狽するばかりであった。

「さあ…部活を始めよう。」

「……YES。」

・ しかし、そんな二人もどついつい訳か？律の命令には何故か逆らえず、衛兵の如く敬礼するムギと唯にならって敬礼しながらYESした。

・放課後のお外。

「どこに放火する？」

「ん？あ！あそこなんてちょうど良さそう！！」

・あちこち探し回り、手頃な民家を見つけた五人。

・尚、表札には『真鍋』と書かれていた。

「みんな、ウチの会社が経営している海外の兵器開発メーカーから貰ってきた火炎放射器よ。」

「『『『『おおー！！』』』』」

・ムギは火炎放射器を四人に渡し、自身も装備すると同時に構えを取った、そして律が先頭に立つ。

「諸君、これより我々が『放火後ティータイム』となった第二の要因である逆賊・真鍋和の家を焼き打ちする。」

・最早変更不可能となった呪われた名前になった諸悪の根源・山中さわ子は既に唯が裁きを下した、次は和の番である。

「諸君！これは明らかに部に対する許されざる原罪（つみ）であり、信義への裏切り行為である！これは断じて許すことは出来ぬ！只今より私を含め、諸君を突撃隊に任命する！！諸君は部の尊厳と信義を守るため、ただちに行動に移ってもらおう…。」

・演説をした後、律の手信号が上がり…。

「突撃ーッ！！」

「「「「「YES。」」」」」

・鬼畜米英の首級（くび）を討ち取る勢いで突撃を仕掛ける旧日本兵の如く、彼女達は真鍋家に直行した。

「「「「「FIRE！！」」」」」

・火炎放射器が火を噴き、瞬く間に真鍋家は大火上。

「ギャアアアアアア！？」

・和の悲鳴が聞こえてきたが五人は構わずスタコラサッサとその場から逃げ出した。

「我、奇襲ニ成功セリ！！」

・そして『放火後ティータム』はこの後も手当たり次第にあちこちに放火をしまくったという…。

- 翌日、朝刊の記事には『連続放火事件発生、いずれも一家全員がほとんど焼死体で発見、第一の被害者である真鍋さん一家はそれこそ誰かから恨みを買って覚えの無い善良な一般家庭であり、また、第二の被害者である鈴木さん一家の長女・純さん（15）は未だに意識不明の重体…。』と書かれてたという…。

- そして時は動き出し、ついに学祭ライブの時がやって来た。

- 桜が丘高校・体育館。

（純ちゃん…可哀相に、軽音部のライブを楽しみにしてたのにな…。

）
- 唯に似た顔つきだが髪を括り、短いポニーテールにしている少女…唯の妹・平沢憂は友人である鈴木純が放火事件に遭い、今も尚入院中なのを思い出し、悲しそうな表情を浮かべて彼女（純）の無念さを悔いた。

- 憂が座る観客席からザワザワと、今日のライブを楽しみにしている観客達の雑談やらが響くと、暗かった体育館のステージにライトが点く。

（あ、お姉ちゃん達だ…って、あれ？）

・憂はステージに上がる軽音部：否、『放火後ティータイム』の出で立ちを見て絶句、他の観客達も同様である…。

・何故か全員ガスマスクに耐火服といった奇妙な格好をしており、部の中で最も身長が低い梓以外、誰が誰なのかさっぱり区別がつかなかった…。

・そしてガスマスクの内の一人がマイクを手に取り、喋り出す。

『皆さん、こんにちは…「放火後ティータイム」です！それでは聴いて下さい…「ぼわぼわ時間」^{タイム}！！』

・どうやらマイクで喋ってるのは唯らしい、これから『ぼわぼわ時間』なる歌を歌う様で、ドラムにつく律らしき人物がカウントを取った次の瞬間…。

「『ギヤアアアアアア！？』」

・彼女達の背後から派手なバックファイヤーが巻き起こり、さらにはそれが天井に燃え移り、観客席はパニックになった。

「『ギヤオオオオオ！』」

・そして『放火後ティータイム』達は火炎放射器を取り出し、メインボーカルの唯が『ぼわぼわ時間』を歌いながら火炎放射器を噴射させると同時に観客席の観客達が生きたまま『汚物は消毒だ〜！！』と言わんばかりに焼かれる。

「ギヤアアアア！！助け…うわあああああ！？」

- 逃げ遅れた憂は火炎放射に巻き起こまれ、全身を炎に焼かれ、踊り狂った後、そのまま焼死した。

- やがて体育館全域に火の手が回ってしまい、大惨事となった…。

- 翌日、病院にて…。

- 朝のニュースにて、テレビ画面で女子アナが昨日の悲惨な事件を語っていた。

『前代未聞の炎の放火ライブ！犯人であるバンドグループの少女達全員逮捕！体育館は焼失し、被害者数は教師や来客含め、数百人…そのうち××人が死亡、尚、警察はこれまでの連続放火事件との関連性を詳しく追求し…。』

「…な、なんてことなの…私の家に放火した犯人が軽音部の人達だったなんて…!!」

- 病院のベッドでテレビを眺め、顔を青ざめさせる、短く二つに結んだ髪が特徴の鈴木純は余りの恐ろしさに包帯が未だ取れていない全身をうち震わせる…。

「憂が死んで、梓が逮捕されるなんて…うつ、うつうつ…!!」

- 友人の内、一人は死亡、一人は逮捕、余りにも救われない悲劇にただただ純は涙をボロボロ零すだけだった…。

- ちなみに、首を絞め落とされ、ロッカーに仕舞われたままのさわ子は長い間放置され過ぎたため、完全に腐敗が進んだ上に干からびており、まるでミイラとも、ラーメンの中に入ってるメンマとも取れる様な無残な姿になってたという。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6446n/>

放火後ティータム-PYROMANIAC GIRL'S BAND-

2010年10月9日10時42分発行